【歴史は形を変えて繰り返す！歴史（戦略）に学ぶ企業経営】

観点・視点を変えて「三英傑」から学ぶ！ その2

前月号①
1 歴史は繰り返す
2 信長・秀吉・家康の戦略等の比較
3 人は宝（財産）・企業は人なり
今月号②
4 三英傑から学ぶ
5 信長・秀吉・家康の経済政策の比較
6 企業の老化とは「常識や固定観念の蔓延なり」

中小企業診断士・
社会保険労務士・販売士
大野実雄 氏
●プロフィール（オオノ ジツオ）メーカー、経営コンサルティングファームを経て事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェの言葉に、「創造者たらんとする者は、まず破壊者でなければならない」というものがある。信長の野望「天下布武」は、この長く続いた戦乱の世（旧時代）を終わらせ、天下統一（新時代）を創造しようとした。ゆえに、信長に与えられた歴史的役割は、彼自身が「破壊者」となって"旧き世の遺物"にしがみつく輩を徹底排除することであった。いつの時代でも、環境や社会変化の中で人それぞれが役割と使命が与えられている。

4 三英傑から学ぶ

「織田がつき、羽柴がこねし天下餅、座りしままに食らう徳川」江戸時代末期の詠み人知らずの落首（らくしゅ：時局の風刺や権力者を批判、嘲笑した匿名の文章や詩歌のうち、とくに詩歌形式のもの）。三英傑をうまく表現した歌である。戦国の世を終わらせる一歩手前まで来て、本能寺に倒れた信長。足軽から身を起こし、天下人まで昇り詰めた秀吉。長期政権継続の礎を築いた家康。

5 信長・秀吉・家康の経済政策の比較

	信長	秀吉	家康
経済政策	経済を理解し、いち早く関所を撤廃し、商品流通を促進したのはやはり（当時としては）天才的といえる。ちなみに有名な「楽市楽座」も実は一部のみで、実際には既存の座を保護する方向で収入を得ていた。つまり自分に敵対する座（特に敵対寺社関係）は容赦なく潰したが、そうでないものは利用する。ただ、それまでの岐阜の楽市楽座などと違い、安土・山下町（さんげちょう：滋賀県近江八幡市）の楽市楽座は座の保護というよりは自由貿易を指向したものであった。もう少し信長が存命していれば、経済的にも大革命が起こったかもしれない。	織田信長のものを殆ど踏襲しており、太閤検地と刀狩は税制を確立させ、兵農分離を行い、楽市楽座・朱印船貿易による商業振興と都市の掌握・貨幣鋳造による商業統制を行った。検地や刀狩、兵農分離等といったものは信長政権下でも行われていたもので、逆に言えば信長の支配体制を模倣したからこそ天下統一を成しえたとの見方もできる。ほかにも身分の格差を徹底させた。こういったことは江戸時代の幕藩体制の基礎を築いたと評価されている。	信長以来の自由な市場経済を家康も尊重した。家康による政権の財政基盤は、何と言っても「士農工商」に象徴され、武家と農民の身分関係による成り立つ年貢（米）の安定的な徴収である。あくまでも農本主義を基軸とした経済政策が基本であった。経済面での法治主義は、各地域の収穫高を、従来の貫高・表高混在の状況を石高一本に統一した事にもあらわれている。石高は米の生産量を基準にしたものであり、大名だけでなく、家臣の知行高も石高で示され、武士の封建的階層性を明確にさせる事になった。

6 企業の老化とは「常識や固定観念の蔓延なり」

組織（企業）や人の成長を阻害する最大の壁は「固定観念」である。当社の常識は世間（顧客）の非常識かも、当業界の常識は他業界の非常識と疑ってみることも大切である。老化とは年齢や歴史を重ねることでなく、チャレンジをしなくなることである。企業も人も新しいことに挑戦するかぎり「常に若くある！」を実践する。常識や固定観念を破壊した先には、新たな産業・業種・業態・技術・製品・サービスが新たな時代に浸透していく。このことは人間社会がある限り、永遠に繰り返されるであろう。

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑（かがみ）でもあります。

＊史実は諸説があります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
＊イラストはイメージです。